



発行日：令和5年2月

編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

◆第14回川部会まとめの会を開催しました！

1月31日（火）に第14回川部会まとめの会が豊田市にて開催されました。まとめの会では、3つのテーマに関する令和4年度の活動の振り返り、令和5年度の活動目標について話し合いました。また、矢作川上流圏域河川整備計画・川づくり計画基本設計、広田川（菱池遊水地）に関する話題提供と話し合いを行いました。



日時：令和5年1月31日（火）14:00～17:10

会議場所：豊田市崇化館交流館 2階大会議室

参加者：22名（内オンライン参加7名） ※事務局を含む

◆主な会議内容

1. 話し合い WG



(1) 矢作川上流圏域河川整備計画・川づくり計画基本設計について

愛知県建設局河川課の戸田氏より、矢作川上流圏域河川整備計画・川づくり計画基本設計の内容について説明していただきました。主な内容を以下に記します。

- ・ 矢作川の籠川合流点から上流の矢作川及び支川の河川整備計画を令和2年8月に作成した。
- ・ 予備設計の前に、現状と課題・目指す姿・区間毎の配慮事項を検討する「川づくり計画基本設計」のプロセスを設定し、検討会を立ち上げた。
- ・ 上流圏域では、計画での配慮事項を踏まえながら詳細設計を進め、河道掘削や樹木伐採等の工事を行っていく。

(2) 一級河川広田川（菱池遊水地）に関する話題提供

愛知県建設局河川課の柴田氏より、一級河川広田川における菱池遊水地の造成について話題提供していただきました。主な内容を以下に記します。

- ・ 広田川の河川整備計画では、洪水対策として相見川合流点付近に菱池遊水地の設置を計画している。計画では、現在、農地として利用されている北側の24haに遊水地を造成する。
- ・ 菱池遊水地の上部利用については、現在幸田町と協議中であり、上部利用について良い案があれば意見を伺いたい。

(3) 22世紀奈佐の浜プロジェクトからの話題提供

愛知・川の会 近藤氏より、伊勢湾の現状と課題について話題提供していただきました。主な内容を以下に記します。

- ・ 伊勢湾流域圏から出たごみの大半が答志島に流れ着く。今問題になっているのは、流木・灌木などの自然物である。
- ・ 流木の大量漂着は、流域の問題として考える必要があり、川部会も山と海をつなぐ問題として考える必要がある。

2. 話し合い まとめ



(1) 令和4年度 川部会ふりかえり

2回のWG、海・川合同部会、まとめの会を実施し、設定した3つの課題に関する活動進捗状況が報告されました。主な報告内容を以下に記します。

①本川モデル

- ・ 海・川合同部会にて鵜の首地区水位低下事業、干潟造成箇所、ヨシ原再生事業を現地視察し、意見交換を行った。

②支川モデル

- ・ 一級河川広田川（菱池遊水地）での大規模特定河川事業について解説いただき、菱池地区の歴史を踏まえ、今後、人との関わりを考えながら、遊水地の利活用について意見交換を行った。
- ・ 矢作川上流圏域河川整備計画・川づくり計画基本設計について情報提供していただいた。基本設計では、川づくりに関する基本検討を行うことにより、予備設計に「川の目指す姿」を反映させることを可能としている。

③地域連携モデル

- ・ 矢作川流域圏と隣接流域における川・海ごみの現状について情報共有を行った。

(2) 令和5年度 川部会活動目標

来年度の活動目標について話し合い、「①本川モデル ②支川モデル ③流域連携モデル」から、「①河道に関する課題 ②流域に関する課題 ③交流・共有に関する課題」に変更することが決まりました。この変更により、従来の川の中に関する課題、山から海までの流域の課題、部会や外部との連携・協働の課題などへの対応が期待できます。

◆話し合いでの主な意見 (・意見 ▶回答)

●話し合い WG

(1) 矢作川上流圏域河川整備計画・川づくり計画基本設計について

- ・豊橋河川事務所では土砂の検討会をやっている。それとのフレームワークの調整はどうしているのか？(鷺見)
 - ▶ 総合土砂において判断基準となるような情報は提供しており、整合をとってもらようようお願いしている。(戸田)
- ・土砂の通過量、堆積・浸食量といった基礎情報はあまりないと思うが、その中でこんな川にしたいという話しを整理している。どのようなフレームでこの先組み立てていくのかという点について説明がほしいと思う。(鷺見)
 - ▶ 計画の中で明確な目標値を示すことは難しいと思う。また、東海豪雨後と近年の矢作ダムに入ってくる土砂量の傾向が異なってきている。東海豪雨と通常の土砂量を切り分けて管理を考える必要がある。(山路)
- ・「環境整備の主な実施箇所」は、基本設計・予備設計・詳細設計のどの段階ではっきりさせるのか？(鷺見)
 - ▶ 予備設計・詳細設計の中で具体的に詰めていく。平面図上で配慮事項を整理するのが基本設計段階となる。(戸田)
- ・基本設計の中の「矢作川の目指す姿」に記されている対策メニューは効果検証を行うほうがよい。(内田)
- ・対策メニューにある水制工や分散型落差などは、ある程度攪乱がないと機能しない施設。攪乱するための水量をどうやって確保するかを検討が必要と思う。(近藤)
- ・今のキャパシティの大きな流量が来た時でも大丈夫な河道では、土砂は動かない。そうすると、砂州が固定化されて、植物が繁茂し、土砂が上に溜まるというのが繰り返されることになる。(鷺見)

(2) 一級河川広田川(菱池遊水地)に関する話題提供

- ・自然環境の中で、菱池として収まっていたものを、人間の都合で農地に変えてしまった。それを今、元に戻すような格好になっている。(清水)
- ・遊水地のところと圃場整備事業予定のところの高低差はどれくらいあるのか？(光岡)
 - ▶ 高低差は10~20cmくらいで、ほとんど高低差はない。(柴田)
- ・遊水地のところで水田耕作などは可能か？(光岡)
 - ▶ 地役権を設定するケースと用地買収するケースがあり、今回は用地買収なので水田等の工作はできない。(柴田)
- ・遊水地としての計画は変わらないが、その上部利用については、まだ決まっていないところもある。幸田町が公園として利用することは決まっているが、どれくらい公園とするかはまだ決まっていない。(柴田)
 - ▶ 農家の人がそのまま借りて、水田として耕作していくのも可能ではあるかと思う。(光岡)
 - ▶ まち場の人なら、ここで農地をやりたいという人もいるかと思う。(牧内)
 - ▶ 名古屋では全部公園として使っているところもある。直轄だと、地役権3割くらいを補償して水田耕作をやっているところもある。(山路)
 - ▶ 安城市の遊水地では、グラウンドとして地元が管理して使っている。(榊原)
 - ▶ 野鳥が減少しているということを勘案し、鳥が集まる水辺にしたらどうか。(清水)
 - ▶ Googleマップで確認すると、耕作地の所々に水溜まりがある。昔は池だったところなので、絞り水が出ていると考えられる。生物多様性を考えた場合、そのまま放置すれば湿地になっていくことも考えられる。(松沢)
 - ▶ 出口のところをいろいろ変えられるような自由度を持たせれば、いろいろできるかもしれない。(鷺見)
 - ▶ 理想としては、常に水が入り替わる湿地で、本木が入らず、湿地環境が維持されるのがベストかと思う。(柴田)
 - ▶ 河川課や西三河建設に委ねた上で、今回の意見は協議していただければと思う。(近藤)
- ・菱池遊水地についていろんな意見が出た。流域圏懇談会はいろんな視点で見ることができるので、現場をみながら協議するのもよいかと思う。来年、そのような場を作るべきかと思う。(近藤)

●話し合い まとめ

(1) 令和4年度 川部会ふりかえり

- ・菱池遊水地についての議論は、今までの歴史を踏まえ、人間との関わりを持っていくためにどうするかについて意見交換を行ったという点を強調するほうがよい。(柴田)
- ・矢作川上流圏域河川整備計画・川づくり計画基本設計では、河川環境のあるべき姿を検討し、それを予備設計・詳細設計に落とし込むために基本設計をやっていることを強調するほうがよい。(柴田)
- ・今年度の成果は、いろんな人が部会に新しく加わって、いろんな議論ができたこと。新しい動きの成果として、全体会議で報告するとよい。(近藤)

(2) 令和5年度 川部会活動目標

- ・「あるべき川の姿」は、上流圏域河川整備計画の中で出てきた。それについても議論する必要があると思う。(近藤)
- ・流域治水について進めようとする、自治体を集めた協議会を作るとするのが一般的だと思う。前にメニュー表を作成したのは知っているが、現在の進捗状況はどうか？(近藤)
 - ▶ 毎年、年度末にレビューをやっているので、流域圏懇談会で情報共有していく。(山路)
- ・土砂管理の共有と流域治水、流域管理も含めた話しになっていくと思うので、流域圏懇談会としてしっかり見ていく必要がある。(近藤)
- ・流域の問題はどこがカバーするのか。川部会で全部背負うのかという点。しかし、切り離してしまうと川の中だけになってしまい、それも難しいと思う。(鷺見)
- ・10年間で山・川・海の課題が変わってきている。川で変わった点は、流域治水の問題。流域全体として今まで触れなかったところに触れないといけない。(近藤)
- ・本川・支川・地域連携であると、流域全体のことが出てこないし、出しにくくなる。(光岡)
- ・流域でつながっているというのは、水でつながっているということ。山で出た水を川にどう流すか、川は受け取った水を海にどう流すか。このような考え方をすればつながってくると思う。(清水)

- ・本川モデル・支川モデル・地域連携モデルが古いということで、以下のように分けることを提案する。(鷺見)
 - ◇ 河道に関する課題(本川・支川): 河道、川の中に関する部分を対象とした課題
 - ◇ 流域の課題: 上下流問題を含む山から海までの流域を対象とした課題
 - ◇ 交流や共有に関する課題: 地域連携モデルに入ってくる交流や共有などアクティビティとしての課題
- 提案いただいたカテゴリーであると、広がりが出て、いろんな接点ができるのではないかなと思う。(山路)
- この分け方であれば、「川のあるべき姿」の議論をやってもよいし、菱池遊水地にみんなで行って議論するというようなこともやってもよい。(近藤)
- カテゴリーを整理すると、①河道に関する課題 ②流域に関する課題 ③交流・共有に関する課題 となる。サブタイトルはその時に扱うテーマによると思う。(山路)
- このカテゴリー分けは、次年度議論するのではなく、全体会議で挙げてしまう方がよい。(近藤)
- ・河川領域では、いろんな課題が背後にあるので、広く流域圏懇談会がプラットフォームになって、困っている団体等に助言や意見交換ができる場になっていけばよいと思う。(山路)



今後の予定



- 第12回全体会議 (日時) 令和5年2月17日(金) 13:30~16:30
会場: 株式会社ビレッジ開発 3階大会議室(愛知県安城市三河安城本町2-7-13)

◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 山路、建設専門官 宮本、技官 松田
TEL 0532(48)8107

* 矢作川に関する情報は、国土交通省豊橋河川事務所調査課 (cbr-toyo-chousa1@mlit.go.jp) までお送りください。

